

TOTO 株式会社 実践事例紹介

○ あなたの地域に合わせたパブリックトイレを考えよう

授業の様子

企業の様子



学校の様子



WEB会議システムを活用し、東京にあるTOTO本社と福岡県糸島市の小学校をつなぎました。子ども達は、画面(iPadまたはスクリーン)を通して、TOTO社員に、自分たちが考えたアイデアを発表しました。企業側は発表を聞き、発表内容に対してフィードバックを行いました。

TOTOの授業では、2コマ目の後半に、東京や名古屋・大阪・福岡にある「TOTOテクニカルセンター」の見学コースも行っていました。

発表アイデア

このアイデアは、小さい子ども連れの親が子どもが待てずにトイレから出ようとして困っているところから考えました。小さい子どもを連れてサークル活動を行う公民館をイメージして考えました。



講師からのフィードバック

小さな子どもでも楽しく時間を過ごすことができるアイデアですね。映像を流すなど、AI・VRを駆使したりシールを渡すといった、トイレの仕方やマナーを学ぶことができるトイレになっています。イラストもたくさん描いていただき、見た目にも楽しく仕上がっていますね。

教員の主な感想

■ 本日はすばらしい機会をいただきありがとうございました。プロの方に話を聞いていただくという場があるので、今までになく入念に発表練習にも取り組む熱心な姿が見られました。また、TOTOのお2人があたたく受け入れてやさしく質問やコメントをしてくださったので、子ども達の緊張もほぐれ、有意義な時間となりました。東京とリアルタイムでやりとりをすることがよい刺激にもなりました。ユニバーサルデザインについて、キャリアについて（働くときの心構え）、人の立場に立ってものづくりをすることの大切さ、様々なお話をあり、心に響いていました。またぜひ取り組みたいです。

TOTO 株式会社

あなたの地域に合わせたパブリックトイレを考えよう

TOILET



TOTOのトイレからユニバーサルデザインについて学び、「あなたの地域に合わせたパブリックトイレ」のアイデアを考えるという課題を通じて、解決策を考え「課題解決力」を養います。

授業の概要

対象： 小学校5年生～6年生
準備物： すべて無料貸出
時間： 45分×2コマ
(計2時間)

授業のねらい

- 新福祉教育の視点を入れたパブリックトイレの開発を学び、実際に企業の方と接し、その仕事における苦労ややりがいを知る。
- 地域に合った新しいパブリックトイレを考える課題を通じて、他者と協働する力や創造する力を養う。

授業内容のご紹介

●1時間目の授業（先生による授業）



福祉教育の視点を入れたトイレの開発について学び、課題解決のアイデアを考えよう。

<主な内容>

- ・パブリックトイレとは？
- ・トイレの工夫① きれいさを保つこと
- ・トイレの工夫② 誰にとっても使いやすいこと
- ・地域課題を解決する新しいパブリックトイレを考えよう。

●2時間目の授業（TOTOとの遠隔授業）



自分たちの考えたアイデアを、TOTOの担当者に向けて発表しよう。

<主な内容>

- ・発表の準備をしよう
- ・あなたの地域に合わせた「パブリックトイレ」を発表しよう
- ・TOTOの担当者からのコメント
- ・さらによくするためのアイデアを考えよう

●授業スライド



パブリックトイレとは



パブリックトイレを利用するさまざまな人たち



考える上でのポイント



遠隔授業 Q&A

遠隔授業プログラム『あなたの地域に合わせたパブリックトイレを考えよう』を実施している、TOTO 株式会社さんに、遠隔授業にまつわる質問にお答えいただきました。

対面での授業と、遠隔での授業を比較してみてどうですか？

対面授業には対面の良さがあり、遠隔授業には遠隔の良さがあります。対面授業だとどうしても事務所近隣の学校が中心になりますが、遠隔授業では遠方の学校とつながることができます。特に地方の少人数の学校と遠隔授業をした場合、都会の学校の児童を超える熱心さや、生徒・教職員の方々から貴重な機会を作っていたいといった、感謝の気持ちを感じることができます。

また、事前準備にかける時間が多いため、出来上がりのクオリティが高いことも印象的です。3分間のプレゼンでは、役割分担やセリフを決めて、タイムキープしながら発表してくれる姿を通じて、子どもたちの純粋さや、熱心さが伝わってきますし、声のトーンや表情からも真剣にテーマを捉えている様子が伝わってきます。



CSR活動はどのように評価していますか？

CSR活動は、企業にとって必要な活動であり、特にTOTOは水を扱う企業としてグローバルな水環境の改善活動に重点を置いた支援をしています。そして、地域社会への教育を切り口とした貢献は今後も力を入れていく分野の一つです。



↑ TOTO 株式会社で CSR を担当する
萩原さん（左）と佐々木さん（右）が
オンラインでインタビューに答えてくれました。

対面での出張授業も実施していますが、対面と遠隔では KPI は異なりますか？

遠隔授業を何校でやるべきか？ どのような効果があるか？ という明確な答えを今は持ち合っていないというのが現状です。社会に貢献していく上で、遠隔授業をやりながらその答えが見えてくると期待していますし、自社の身の丈に合わせながら、自分たちの答えを出していくことが、今の私たちの課題であると感じています。ただ、私たちの商品は都会に限らず、地方でも多く使っていただいているので、こういった機会の少ない地方に目を向けた活動を増やしていきたいと考えています。

学校との事前のコミュニケーションはどうされていますか？

対面授業の場合は、事前の現地確認や先生方との事前打ち合わせが必須と考えています。遠隔授業の場合は、プロ学さんやコーディネーターに事前の機材確認や通信テストや学校の事情などの情報共有を仲介していただき、スムーズな運営をすることができていますので、対面での出張授業に比べると事前準備の負担は少ないと感じています。

そのため、学校側が事前授業で準備した児童のワークシートなどを読み込み、当日の時間を最大限、効率的なものにするための準備をしています。ワークシートの読み込みに関しては、地方の少人数学級ですと、グループ数が少ないとおり、1グループへ時間もかけられるので、子どもたちの発表に対してのフィードバックも充実するように感じています。

コロナ禍で各方面が困難な状況ですが、今後はどのように教育支援を行っていきたいですか？

今の時点では企業側も学校側も先が見通せず、試行錯誤でしのいでいる状況であり、特に先生方の現場での苦労は各所からお聞きしています。そういった中で企業としていかにこれからの中の教育現場に役立つプログラムを整備していくか、悩みどころですが、いずれにしても従来と違った新しい社会のスタンスに沿ったものにしていく必要があると思います。

その意味では遠隔での授業、教育プラットフォームを活用したプログラム提供、キャリア教育支援など、新たな試みを試していく必要があると考えています。

遠隔授業の可能性に関して

文科省のGIGAスクール構想が話題となっていますが、いずれにしても令和5年までに一人1台PCが実現し、一人ひとりの能力に合わせた学習が行われる世の中になっていくのであれば、それに向けて企業もICT教育の対応が求められていくことになるでしょう。その意味からも今から遠隔授業を研究していく必要があり、当社も一昨年よりこの活動を強化して得てきた手応えを踏まえ、より一層の可能性を探っていきたいと考えています。

メディア掲載情報

TOTO株式会社の
遠隔授業は山形新聞、
新日本海新聞、中国新聞
に取り上げられました！



↑ 2020.9.15 山形新聞

2020年度実施校

- 9/14 山形県鶴岡市立黄金小学校 6年生 13名
- 9/18 福岡県糸島市立長糸小学校 5・6年生 27名
- 9/24 新潟県糸魚川市立大野小学校 5・6年生 23名
- 10/27 奈良県曾爾村立曾爾小中学校 6年生 4名
- 11/13 岩手県遠野市立綾織小学校 5・6年生 21名
- 1/13 鳥取県日南町立日南小学校 4年生 17名
- 2/10 岩手県零石町立御明神小学校 6年生 12名
- 2/17 宮城県石巻市立和渕小学校 5・6年生 34名

☆年間5~10校実施。実施校は全国様々な地域から募集しています。